

森づくりの現場から ～しれとこ 100 平方メートル運動の 40 年～



2017 年、「しれとこ 100 平方メートル運動」は、40 年の節目を迎えました。1977 年、「しれとこで夢を買いませんか！」の呼び掛けとともに始まった知床の自然を守るこの運動は、多くの方々に支えられ今も続いています。

今回は、この 100 平方メートル運動の歩み、そしてその現場を担う私たち知床財団の活動をお伝えします。

100 平方メートル 運動って何？

斜里町主催のナショナル・トラスト運動。1977 年、知床の開拓跡地を乱開発から守るため、一口 8000 円の寄付を全国に呼び掛けました。その後、20 年間で 4 万 9 千件、約 5 億 2 千万円の寄付が寄せられ開拓跡地の買い取りが完了したのです。その対象地（約 860 ヘクタール）は、100 平方メートル運動地（以下、運動地）として永久に保全することを条例に定めています。

1997 年、運動の第 2 ステージ「100 平方メートル運動の森・トラスト」として、買い取った土地にかつてあった森と生き物の営みを再生する取り組みを始め、今も続いています。

運動の歩み

大正から戦後
知床開拓が進められる



昭和 39 年（1964 年）
知床が国立公園に指定される
1970 年代にかけて離農が相次ぎ、知床開拓の歴史に幕を閉じる

昭和 52 年（1977 年）
「しれとこ 100 平方メートル運動」の提唱・開始
開拓跡地の買い取りを開始

昭和 62 年（1987 年）
林野庁が隣接する国有林を伐採
100 平方メートル運動ハウス開館

昭和 63 年（1988 年）
知床自然センター開館
知床財団設立

平成 9 年（1997 年）
「100 平方メートル運動の森・トラスト」スタート
森の生態系を再生する作業を本格的に開始

平成 17 年（2005 年）
知床が世界自然遺産に登録
保全対象地を全て取得

平成 22 年（2010 年）
運動開始から 40 年が経過
新たな 20 年の始まり

平成 29 年（2017 年）

平成 30 年（2018 年）

文 - 松林良太 自然復元係長

2005 年の入社以来、森づくりの最前線に立つ。この運動との関わりは小学生の時に参加した知床自然教室から始まる。



開拓から運動へ

しれとこ 100 平方メートル運動

知床の幌別・岩尾別地区では、大正から戦後にかけて開拓が進められ、多くの人々が畑作や酪農を営む生活を送っていました。しかし、1960 年代に入ると開拓政策や社会情勢の変化とともに人々は次々とこの地を離れ、人のいない土地だけが残りました。同じ頃、当時日本各地でブームとなっていた

たりゾート開発や土地投機の波は知床にも押し寄せ、開拓跡地も乱開発の危機にさらされ始めたのです。

その開発の危機から知床の土地を守るべく、当時の斜里町長が声を上げて始めたのが「しれとこ 100 平方メートル運動」です。1977 年にスタートした 100 平方メートル運動は、その後多くの方々の支援を受け運動開始から 20 年間で開拓跡地の買い取りをほぼ完了し、知床の土地を乱開発から守るといいうひとつの目的を達成したのです。

「守る」から「育てる」へ

100 平方メートル運動の森・トラスト

1997 年、100 平方メートル運動は、新たな展開「100 平方メートル運動の森・トラスト」としてその歩みを進めました。それは、開拓跡地にかつてあった自然を再生する取り組みです。運動開始当時から、買い取った土地にはシラカンバやアカエゾマツなどの植林を続けてきましたが、新たな運動では、知床にもともとある多様な豊かな生態系を取り戻す方向へと本格的に舵を切ったのです。

「森林再生」「生物相復元」「運動地公開・交流事業」を 3 本の柱に掲げ、新たな歩みを進める中では、高密度に生息するエゾシカが存在やダムなどの工物がある河川環境など、多くの課題にも直面していました。一方、途中には知床の世界自然遺産登録という大きな節目もありました。ここからは、試行錯誤を繰り返しながらも数百年先の未来を目指し歩んできた運動後半の 20 年間で振り返ります。

～始まりの 20 年～

1977



(1974 年)



運動地の変遷

(2014 年)

「始まりの 20 年」から 「次の 20 年」へと 運動は形を変えていく